



やよいじだい

弥生時代は、なぜ「弥生時代」とよばれているの



むこうがおかやよいちよう
東京の向ヶ岡弥生町で最初に発見された、弥生土器
とよばれた土器が、使われていた時代だからだよ。

向ヶ岡弥生町で、弥生土器が初めて発見された

1884(明治17)年3月、東京府本郷区向ヶ岡弥生町(今の東京都文京区弥生2丁目)の貝塚から、縄文土器とはちがった、赤かっ色のつぼが発掘されました。初めは、ちょっと変わった縄文土器(当時は貝塚土器とよんだ)だ、ぐらいにしか考えられていなかったのですが、しだいに、縄文土器とのちがいが注目され、帝国大学(今の東京大学)の研究者たちが、発見された地名にちなんで「弥生土器」とよぶようになりました。

縄文時代と古墳時代^{こふんじだい}の間に、弥生時代を置いた

弥生土器は、初めは、石器時代のものと見られていました。しかし、大正時代に、九州大学の中山平次郎教授が、福岡市周辺の遺跡^{いせき}を調べた結果、石器時代と、金属器を使っていた古墳時代の間に、石器と金属器の両方を使っていた時代を置き、これを、弥生土器が使われた時代としよう、と考えました。こうして、「弥生土器の時代」の意味で「弥生時代」の名前が使われるようになり、大正時代の後半には、縄文時代 弥生時代 古墳時代という時代区分が、ほぼ固まりました。しかし、弥生時代の特ちょうが、米づくりであることがわかったのは、昭和時代に入ってからのことです。



弥生土器が発見された貝塚は、今は
東京大学の構内になっているよ。